

# 会道書部宮

## 城下盛岡町名由来

### ひかけもんそとこうじ 日蔭門外小路

内丸の西門にあたる日蔭御門は、現在の北日本銀行本店の前付近であった。この日蔭御門の外、四ツ家町に至る一画を日蔭門外小路と称し、中下級の武士が住んでいた。盛岡城下の草創期には、三戸から移って来た人々が住み三戸町と呼ばれていた時代もあった。

日蔭門外小路の入口右角には、御指石黒澤澄が、明義堂を建て、慶応元（一八六五年）に作入館と改称され、文武、医を教授、幕末から明治にかけて多くの人材を生む温床となった。作入館跡は明治五（一八七二年）の学制公布により仁王小学校となり、同八（一八七五年）の明治天皇巡幸のとき行幸があった。現在その一部が明治天皇の聖蹟記念公園（日蔭門跡地）となっている。

日蔭御門を出て西に向うと仁王御門があり、この廻りで赤川を隔てるとする土塁が築かれた外堀の西門に当たっていた。外堀の上手の上には、鐘楼が立ち、「三戸町の時鐘」と呼ばれていた。現在は板山神社前の鶴ヶ池の側に移転し、市の文化財に指定されている。

平成二十三年十月 盛岡市



盛岡は南部藩の城下町ですが、旧岩織ビル教室の時に紹介した上ノ橋も欄干に南部利直公の銘が彫られた擬宝珠があります。新しく移転したビルのすぐ近くにも、南部藩由来の日蔭御門があります。町名由来にその詳細が記されていますが、新しい教室はその日蔭門外小路に面しています。緑地は秋田に向かう岩手県道1号線に面し、下の写真は亀が淵に移転した鐘楼の写真です。